

# EIWA UNIVERSE

第25号

発行日 2022年2月28日

## カフェメニューを考案しました(食物栄養学科)

### ハイライト:

- 食物栄養学科  
ニュース  
カフェメニューを考案  
しました (1p)
- エコ大作戦を実施し  
ました (3p)
- 2022年度学納金の  
納入期日・寄付金の  
お願い (6p)
- 災害備蓄品を入れ  
替えました (8p)

### 目次:

学長言	2
宗教委員会 ボランティアセンター	3
学科ニュース 連携課	4
研究室探訪 財務課	6
留学生センター 学生課	7
キャリア支援課 後援会	8



2021年度、withコロナで始まった4月、日本平夢テラスより、オープン3周年記念イベントの一環として、カフェで新しいメニューを考えたいので、本学科の

学生に手伝ってほしいという依頼が舞い込みました。オープン記念日である11月3日から4週間、土日祝日のみの限定販売とされるメニューを、大学生の斬新なアイデアから決めたいという提案でした。日本平夢テラスでは、静岡県産牛乳の共同ブランドである「みるしず」や久能山石垣いちご、県内産抹茶パウダーを取り入れるなど、地元の材料を使っておいしいものを提供しているコンセプトに共感し、有志の学生6名がメニュー開発にチャレンジしました。最も力を入れたかった夏休みに緊急事態宣言が発令されてしまい、学生同士が集まるとするなどアイデアを出し合いながら、それぞれの自宅から大学にいる教員と連絡を取り合いながら、作業を進め

ました。静岡県の特産品である「緑茶(抹茶)」と「みかん」に着目し、何度も試作を繰り返した結果、寒くなってくる時期であることも考え、「静岡抹茶ラテ」「静岡抹茶のクリームサンドワッフル」「静岡みかんのふわふわシフォンケーキ」の3品を商品化しました。



抹茶ラテを1年生の鈴木怜奈さんと吉川真琴さん、抹茶ワッフルを2年生の柴三奈さんと丹羽



亜有奈さん、みかんシフォンを1年生の神谷梨歩さんと岡野文音さんが担当し、試作の他

にも商品の栄養価計算を行い、抹茶、牛乳、房ごとのみかんの効能などを記載したメニュー表も作成しました。また、試作等への参加ではないものの、抹茶ワッフルのアイデアを出した1年生の松村夏妃さんの他、1,2年生合わせて15名がアイデア募集に応募してくれました。

学生のまとめ役となった2年生の柴三奈さんは「貴重な経験をさせていただきました。お客様に提供することを前提としてメニューを考案し、試作を重ねていくうちにお客様の立場になって食べたいかどうかという視点で考えられるようになりました。今後に活かしていきたいです。」とコメントしてくれました。大変貴重な機会となり、実現できたことを嬉しく思います。今後もこのような機会を活かせる学生がたくさん育ってくれることを期待します。

(食物栄養 小山)



ちきゅうおんだんか もんだい れんたい たす あ  
地球温暖化という問題 — 連帯し、助け合う

学長 柴田 敏

13 気候変動に  
具体的な対策を



ひと ぜんせかい て い じぶん いのち うしな  
人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、  
なん とく じぶん いのち か もど だいか しほら  
何の得がろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。

ふくいんしょ しょう せつ  
(マルコによる福音書8章36、37節)

柴田 敏  
(しばた さとし)  
学長

しんがた かんせんしょう りゅうこう ふ あん じょうきょう つづ  
新型コロナウイルスの流行については、いまだに不安な状況が続いています。それでも、  
かんせんじょうきょう しず きかん けいざい さいせい ちから い いけん  
感染状況が静まっている期間には、これからは経済の再生に力を入れていこうという意見が  
つよ とき かいぜん もど せいがい  
強くなります。しかしその時に、すべてコロナ禍以前に戻ることが正解なのでしょう。

げんざい ちきゅうおんだんか と せかいてき だいもんだい ちきゅうきほ せいかつ  
現在、地球温暖化を止めることが、世界的な大問題となっています。地球規模で、これまでの生活のしかた  
あらた さき だれ い きけん  
を改めないと、この先、誰も生きていけなくなる危険があります。

ちきゅう せいたいけい みだ ぜつめつ どうぶつ しょくぶつ で せかいじゅう のうぎょう きぎょう おお えいぎょう あた  
地球の生態系が乱され、絶滅する動物、植物も出てきます。世界中の農業、漁業にも大きな影響を与え  
あら  
ます。新たなパンデミックにつながるかもしれません。

なんきょく こおり せかい ひょうが と かいめん じょうしゅう えんがんぶ しま うみ の こ  
南極の氷や世界の氷河が解けて、海面が上昇すれば、沿岸部や島は海に飲み込まれてしまいます。  
おおがた たいふう こうら おおゆき いじょうきしゅう お ひがいう ひと ふ  
大型の台風、豪雨、大雪など、異常気象が起きやすくなり、被害を受ける人が増えます。  
じんるい ぜんせかい て い み じつ いのち うしな きけん  
人類は、全世界を手に入れたように見えますが、実は命を失う危険にあるのです。

ちきゅうおんだんかもんだい たい せかい わか ひと れんたい こうどう だいひょうてき  
このような地球温暖化問題に対して、世界の若い人が連帯し、行動しています。代表的なのはスウェー  
うんどう せかい かつこく ひろ  
デンのグレタ・トゥーンベリさんで、Fridays for Futureの運動は、世界各国に広がっています。

ちきゅうおんだんか ひがい とくてい くに ちいき ちきゅうぜんたい もんだい  
地球温暖化による被害は、特定の国や地域だけでなく、地球全体にふりかかる問題です。ですから、  
せかいじゅう ひとびと れんたい しんけん れいせい と く にほん にほん  
世界中の人々が連帯して、真剣に、そして冷静に取り組まなければなりません。それは日本も、そして日本に  
す わたし おな  
住む私たちが、同じなのです。

か なか きゅうくつ じしゅくせいかつ おく だれ じゅう せいかつ おも  
コロナ禍の中で、窮屈な自粛生活を送っています。誰でも、いつかはもっと自由な生活がしたいと思いま  
だい きほ かいはつ ゆ す しょうひ ちきゅうおんだんか すす  
す。それでも、これまでのような大規模な開発や行き過ぎた消費は、地球温暖化を進めてしまうことにつな  
けつきよく みらい せだい かね かいけつ くだい のこ  
ります。結局、未来の世代にお金では解決できない課題を残してしまうのです。

れんたい りんじん じぶん あい たす あ あい じっせん きゅうおんだんか と  
連帯するとは、隣人を自分のように愛することです。助け合うとは、愛を実践することです。地球温暖化を止  
おお もくひょう む せかいじゅう りんじん れんたい たす あ なが みち しみ  
めるという大きな目標に向けて、世界中の隣人と連帯し、助け合っていくしましょう。この長い道のりを、神さまが  
ささ みちび  
支え導いてくださいますように。

## 宗教委員会

### 2021年度クリスマス礼拝

2021年度も心温まるクリスマス礼拝を捧げることが出来ました。今年は22日が本学のクリスマス礼拝となりました。コロナの影響で毎年恒例となっていた聖歌隊、吹奏楽によるクリスマスメドレーが行えなかったことは残念ですが、例年に負けない素晴らしいクリスマスとなりました。キャンドルサービスは、食物栄養学科の学生8名が壇上上がり、オルガンの奏楽のなか厳かに行うことが出来ました。また聖書朗読は、人間社会学部の学生3名と現代コミュニケーション学科の留学生が参加しました。本番はリハーサルで練習したように、落ち着いて上手に行うことが出来ました。礼拝後は彼ら彼女らがサンタクロースの格好で恒例のお菓子配りを行い、学生たちにクリスマスプレゼントを届けることが出来ました。

今年もまた、劇団によるクリスマス劇が行われました。「金糸雀の喫茶店 (かなりあのおきさてん)」という演目で、12月25日に誕生日を控えた独りの学生が、金糸雀の女の子と出会うというお話です。街中がイルミネーションに



照らされ、家族や恋人たちと楽しそうに過ごすクリスマスに、初めは孤独感を感じていた学生が、金糸雀の女の子と出会うことで、神様を信じたいと思うようになる、そんな小さな奇跡を描いた作品

でした。学生たちのクリスマスに対する想いがよく表現されていて、同年代の若者に共感呼んだようです。毎年学生たちに合同イベントを呼びかけていますが、このクリスマス礼拝が学生たちに



とってかけがえのないものとなっていることに喜びを感じました。

クリスマスメッセージは、イザヤ書7章10-14、10章1-5節、ルカによる福音書2章1-20節から行いました。ローマ皇帝による住民登録の勅令によって、生きる場所を奪われていく世界に、御子がお生まれになり、生まれる場所さえも満足になかったイエス・キリストが世に來られたことで、世界に神の御支配が広がった。神の御支配は私たちに自由を与え、私達が希望を持って生きるかけがえのない世界を与えられたと、力強く説教しました。礼拝の様子はyoutubeの公式チャンネルとオンライン授業で配信されていますので、ぜひご覧ください。

2021年度もコロナの状況で大変な年でしたが、神に護られ、本学になくてもならないクリスマス礼拝を捧げることが出来ました。本学院のためにお祈りください、ご支援してくださいる全ての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。  
(宗教主任 大坪)

## ボランティアセンター

### エコ大作戦を実施しました！

11月27日(土)に環境社会チーム主催でエコ大作戦を実施いたしました。これは、池田山団地の避難場所である桜公園を清掃、除草する活動になります。本学のボランティアセンタースタッフをはじめとする学生20名と教職員、団地の方々にもご参加いただき、総勢約30名が集まりました。昨



年もエコ大作戦を実施したのですが、設置されているベンチや水道が草木に覆われていたため、公園兼避難場所として使用できるよう活動をスタートしました。

鎌で草を刈り取る学生、それを袋に集め廃棄場所へ運ぶ学生、掃き掃除を行う学生など、開始と同時に、自然と自らの役割を理解して行動に移している姿が見受けられました。また、団地の方々と会話を交えながら作業しており、地域交流ができるエコ大作戦の良さを感じました。

1時間半ほどで元の公園の姿を取り戻し、作業終了後には「避難場所であるこの場所が綺麗になって本当に良かった。」と団地の方からお言葉をいただきました。今後もこの活動を継続し、国際連合の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)にあるように、万が一の場合でも安心して住み続けられる街づくりに貢献していきたいです。

(ボランティアセンター 倉田)



## 人間社会学科

新型コロナウイルスの感染で、昨年度の授業はほぼオンライン授業でコミュニケーションもなく寂しい限りでしたが、今年度は多くの授業が対面となりました。やはり、教員も学生たちも対面授業はお互いの顔が見え、会話もできることから、充実したキャンパスライフを楽しんでおります。

今年度9月より1名の新任の先生が本学科に着任いたしました。ご紹介しますと、「経済倫理学」がご専門で現在は経済面から見た子供の貧困の実証研究をされている菅隆彦講師です。菅先生はロックが好きで格闘技や筋トレがご趣味とのこと、ストレッチを含め心身への効果についてご教示していただきたい！と熱望しております。今年度は狭間敏行講師含め新任2名が加わりました。

今年も多く地域連携事業が行われましたので、いくつか紹介いたします。「観光デザイン論」を受講の学生たち（担当教員：川崎友加講師）が、日本平夢テラスの3周年イベント共同企画ということで「ロープdeアート」という手法を用いて芝生をキャンパスにメッセージを制作しました（写真参照）。本学マスコットキャラクター「かえでちゃん」も登場しています。

「R3しずおか中部連携中枢都市圏課題解決事業」において、遠藤ゼミ（担当教員：遠藤雪枝准教授）が焼津市教育委員会事務局図書館課と協働で、「英文多読入門講座」を開催しました。ゼミ学生たちも講座準備やワークショップでサポートを行ったとのこと、得意な語学で地域に貢献してくれたようです。また、「牧之原市：魅力ある公園づくり」事業



（担当教員：畑恵里子教授）においても、ゼミ学生たちが桜の花めぐりをテーマにして牧之原市内の公園マップなどを作成中とのことで、完成したらぜひ見てみたいですね。

次に資格や学生の受賞の話題です。観光地域デザインメジャーでは観光業界唯一の国家資格「国内旅行業務取扱管理者」

（指導：川崎友加講師）に3年生2名が合格したとのことです。アフターコロナで、観光業界がまた活性化したら、ぜひ活躍していただきたいですね。例年挑戦し続けている「第32回伊藤園おーいお茶新俳句大賞」で、今年度も学生・卒業生の作品3点が入賞・入選しました（指導：畑恵里子教授）。おーいお茶缶を購入された場合は、ぜひご確認ください。

最後に、本学科教員の書籍や研究の話題です。畑恵里子教授が『日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）

『舞鶴市糸井文庫蔵浦島伝説関連資料の基礎的研究』研究成果報告書－伝説と文学とについての越境論的提

言－』を発行されました。本学科の金承子准教授がハングル訳に協力していただいたとのことです。また、英和ユニバース研究室探訪は、発達心理学がご専門の日比優子教授です。こちらも併せてお読みください。

まだまだ、コロナ禍の中で大変ですが、学生主体のアクティブラーニングの学びを続けていきたいと思えます。これからも学科教員一同、多様性を重んじ、愛と奉仕の精神で、学生へ幅広い学びの場を提供し、静岡の地に多くの優秀な人材を輩出していきたいと思えます。人間社会学科教員および学生たちの活躍を今後もご期待ください。

（人間社会 永山）

## コミュニティ福祉学科

昨年度（2020年度）の学科会は、コロナ禍により、前期の途中から遠隔会議（ZOOM）を基本としていました。2021年度は、遠隔とともに、可能なときには対面（大会議室）で過密等に注意しつつ実施し、10月からは対面を基本として、適宜遠隔会議としています。本学科の使命を建学の精神から深く捉え、学科のあり方へ検討を加え、また、学期開始時の学科としてのオリエンテーション（コロナへの対応も含めて）について等や、卒業研究・専門演習・基礎演習の充実と改善も検討し、すぐできるところから進めています。

また、コロナに注意しつつ、本学全体で対面授業が適宜開始され、昨年度より本学で学生を見かける機会が増え、現時点では以前の状態とほぼ同様で、遠隔は原則100名以上のクラスのみです。学部1年生へのネットワーク・リテラシー（中原担当クラス）も昨年度はほぼ遠隔でしたが、今年度は前期からほぼ対面で実施できています。後期には、本学科2年生に対して、本学科ゼミ選択説明会も大教室で実施できました（昨年度は動画）。本学科2年生は、本学科教員のゼミに3年生

から全員が原則卒業まで所属することになります。

学部1年生は2年次になる際に学科を選択して所属しますが、昨年度に引き続き学部1年生へ「コミ福祉学科では、資格取得を目指さなくて、学科のカリキュラムの範囲内で福祉学の学びを自分で自由にデザインして履修することができる」と、および「（指定科目の履修等で）福祉系の資格を目指すこともできる」と等をお知らせしています。

保育士・幼稚園教諭一種・社会福祉士の資格取得に必須の実習（2021年8月～9月）について、緊急事態宣言により、複数が変更または延期になりましたが、代替の実習先の確保（3箇所）と延期日程の調整（16件）を実習センター（川先生）が対応し、実習巡回（分担して本学科教員が担当）も含め12月に完了しています。スクールソーシャルワーカーの資格のための実習（6月～10月）については問題ありませんでした。昨年度に引き続き守られ、感謝です。

どのような状況にあっても、主に従うことが最善であると信じます。

（コミ福 中原）

## 現代コミュニケーション学科

### 55年目の創立記念礼拝

2021年11月24日、創立記念礼拝が行われました。英和創立134年目、4年制大学創設19年目ということで、何が55年目かと思うかもしれませんが、今年が「英和短大」が創設されて55年目なのです。因みにこの原稿は創立記念日の11月26日に書いています。

今年度はコロナ禍ということで、創立記念礼拝は、人間社会の奇数番号の学生と、現代コミュニケーション学科の学生が参加ということになり、私も出席して、静岡大学名誉教授の今野喜和人先生の「静岡のクラーク先生を知っていますか」と題された講演を拝聴することができました。平岩愼保（よしやす）牧師が英和の創設に深く関わっていたことは知っていましたが、平岩牧師とクラーク先生（北大のクラーク博士とは別人）とのつながりは、38年も在職しているにもかかわらず全く知りませんでした。また、平岩牧師

が、はじめはむしろキリスト教を好んでいなかったことも知り、驚きました。

4大部・短大部体制後の、初代短大部長兼学科長であった故小嶋善行先生が、短大部の先行きについて、当初から心配しておられました。これは本学だけの問題ではなく全国的傾向なのですが、短大には短大の意義があると私は今でも思っています。コロナ禍は確かに災難なのですが、意味のない試練はないという教えがあります。コロナを機に、学び方、生き方についても、考え直した方がいいということなのではないでしょうか。

駄洒落的ではありますが、55年目ということで、むしろ、Go! g o! という気概を持ち、新しい方向性を模索していきなさい、とクラーク先生並びに小嶋先生に叱咤激励されているような気がしてなりません。

（現コミ 高橋）

### 連携課

本学と包括連携協定を結ぶ富士市では昨年、「富士市デジタル変革宣言」を行い、その一環として今年度デジタル格差解消に向けたスマホ教室・スマホ相談会を富士市内25会場で開催しました。この対象は70代～80代が中心で、延べ300人が受講を申請。

この全ての会場、すべての回で講師およびサポート役を担ったのは本学の学生たちでした。

全国の自治体では、行政手続きや情報発信のデジタル化の動きが加速する一方で、ICTの進展に高齢者が取り残されることのないようデジタル格差を解消する取組みが行われてきています。富士市の取組みも社会のデジタル化が進む中で、シニア世代が取り残されないよう、スマホ・デジタル技術の向上をはかることを目的としたものです。

これは、今年度から本学でも推進しております『誰一人取り残さない』というSDGsの理念達成にも叶う取組みとなりました。

学生にとってのスマホは連絡ツールとしてはもちろん、情報収集、SNS、キャッシュレス、どんな時でも肌身離さず持ち歩くものの一つです。

しかし教室に参加する方々は、文字ひとつ入力するにも苦勞し、説明を聞



いても用語がわからなかったりと、ひとつひとつの作業につまづいてしまうことが多く見受けられました。そんな高齢者ひとりひとりに寄り添い、

丁寧にわかりやすく説明する学生の姿はとても印象的でした。

以前までは自分で情報を取得した人だけが得をする時代でした。しかし今は自分から情報を取

得しに行かないと損をする、そんな時代に変革してきています。

学生はコロナ禍により急な授業変更も全てスマホで確認を行います。

自らが情報を取得しに行くことの重要性を身をもって体験してきている世代だと思います。むしろそれが当たり前で普通なのが今の若者なのかもしれません。そんな若者が高齢者と向き合う講座は1日4時間、参加者にみっちり寄り添い、指導します。

参加してくれた学生は21名。そのほとんどが富士市内在住または富士以東に住む学生です。

この取組みに自発的に声を上げ、参加してくれた学生たちの根底には、地元住民の皆さんへの地域貢献の心があるからだと推察しております。

そんな取組みや地域貢献に参画してくれる学生が一人でも多く育てられることを望んでいます。

能動的に動くことで、通常では得られない発見がきっと見つかることと思います。

この取組みは、ソフトバンク(株)、(株)システック、富士市、本学の産学官民の相互による連携により実施された事業です。

（連携課 森）



17 パートナシップで  
目標を達成しよう



## 研究室探訪



**日比 優子**

(ひび ゆうこ)

所属: 人間社会  
学科

職名: 教授

研究テーマ:

「乳幼児および  
高齢者の高次  
認知機能」「障  
害児/者の生涯  
発達過程」

### 研究活動

私の専門は、認知発達心理学と神経心理学です。認知心理学では、人間の知的な精神活動を対象に、実験や調査などにより実証的な評価と検討を行います。難しく聞こえるかもしれませんが、たとえば待ち合わせ場所で友達を探し、新しい漢字を覚える、車が欲しいと親を説得するなど、日常生活の多くの行動が認知心理学の研究対象となります。そして私は、このような認知機能について、乳幼児、大学生、高齢者、発達障害児/者、脳損傷患者（時に精神疾患患者）など幅広いポピュレーションを対象とし検討しています。たとえば、必要な情報を選択する注意機能は、生後数ヶ月から1歳半までに急速に発達しますが、自ら意図して行動の選択をするには脳の発達に伴い少なくとも3歳までの時間を要します。また、その時々

の状況に応じた適切な行動の選択には、行動プランニングなどの遂行機能や情動機能も重要で、その成熟には青年期までかかります。一方で高齢者は、おおよそ選択すべき情報や行動を理解していても、それらをうまく実行に移す遂行機能の制御が難しいことがあります。また、高齢者は自分に残された時間の有限性の認識により、行動選択の目標自体が情動の安定的な調整へ変化するといわれ、情動機能自体が大学生とは異なります。学生達には、「視線を逸らさない赤ちゃん」「いつもニコニコおばあちゃん」など日常例を示しながら、心理学の基礎的な理論を学び、客観的にヒトをみる力を身につけてもらいたいと考えます。そして、環境にうまく適応できないヒトたちにどのように情報を与えれば、行動を適切に選択できるのか、共に考えていきたいと思っています。

### 社会貢献活動

2013年、地域の企業団体・静岡大学と連携し「市街地における活性化に

関わる問題」を団体関係者と共に考え、見いだされた課題を解決する方策を学生が提案するプロジェクトをゼロから立ち上げ、3年間行いました。また、2016～2018年、障害者施設職員にストレスマネジメントに関する講義・演習を行ないました。現在、知的障害者を支える福祉団体の評議員として、支援活動に携わる中で心理学はさまざまな現場の支援に役立てられることを実感しています。今後は心理学唯一の国家資格である公認心理師も見据え、大学の知的・人的資源を現場に還元していくことができればと考えています。

### ゼミ活動

数名ずつのグループで実験や調査を行い、実体験を通し研究方法を身につけた後、一人で興味のあるテーマを見つけ卒業研究に着手します。先行研究の精査、研究計画立案・実施、データ収集・分析、結果の解釈、発表そして論文執筆を行います。研究と並行し、ゼミ生は「心理学検定」受検にも挑戦し、2021年度は2名が1級（全国平均合格率23.0%）、5名が2級（同37.5%）に合格し意欲の高い学生が集っています。卒業生の進路は、中学・高校教員、大学院生、児童養護施設職員（心理職）、病院の児童指導員、専門学校を経て言語聴覚士や精神保健福祉士、一般企業勤務など多岐に渡ります。少人数のゼミで丁寧に指導してきた成果が、地域への人材の輩出に大きく貢献したと自負しています。



## 財務課

### ～令和4(2022)年度 学納金の納付書発送及び納入期限について～

	前期 ※1	後期 ※1
納付書発送時期	令和4(2022)年4月上旬	令和4(2022)年9月上旬
納入期限 ※2	令和4(2022)年4月25日(月)	令和4(2022)年10月3日(月)

※1 学納金は、前期と後期の2期に分けて納入いただきます。

但し、新入生(1年生・3年次編入生)の前期分は、入学手続き時に納入済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に学納金の納入が困難な場合は、分割・延納が可能(別途手数料あり)ですので、納入期限までに学生課(Tel:054-264-8873)にご相談ください。

### ～ 寄 付 金 の お 願 い ～

将来を担う学生のために皆様からの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

学校法人HPの「インターネット経由」または、「指定振込用紙」でお申込みください。

## 留学生センター

11月に入ってコロナの感染状況も沈静化し、授業も対面が中心となってきたので、留学生が参加するイベントを初めて開催することができました。感染対策をした上でという条件があり、思いきり交流を楽しむというわけにはいきませんが、ありがたいことと感じています。

これまで留学生センターのイベントでは、学生スタッフが企画や準備・運営をしてきましたが、昨年度の始めからこうした活動がほとんど自粛となりました。その期間は長く、学生スタッフの活動は途切れてしまい、人から人への伝承と言う面でもたいへん心配な状況となっています。

そんな中で、この11月に本学の茶道サークルの協力を得て、留学生が参加する「茶道体験」を2日間、昼休みに実施することができたのは大きなことでした。参加人数を限定しての開催でしたが、参加した留学生は体験を楽しんでいる様子で、こうした機会をつくることができたこと自体喜ばしいことです。これまで半ば当たり前ようになっていた文化体験が貴重なものとなりました。

11月20日（土）には、4人の留学生が講師役となって県立高校の国際交流会に参加する機会があり、留学生が日本の高校生と充実した時間を過ごしました。

大学や短大においては授業が第一にはなりますが、普段生活費や学費の工面のためにアルバイトに追われている留学生が、少しでも日本の文化に触れたり仕事以外での人との交流の時間を持つことができると、コロナの終息を願いながら今後の計画をしています。（留学生センター 磯貝）



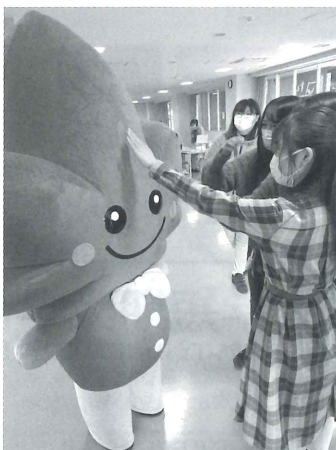
お抹茶を飲み、お菓子をいただく留学生

## 学生課

### 第56回楓祭 開催

2021年11月20日（土）、すがすがしい秋晴れのもと第56回楓祭が開催されました。昨年度実施された学内楓祭は、新型コロナウイルスの影響により規模縮小を余儀なくされましたが、工夫を凝らした内容で新様式の楓祭を作り上げました。

楓祭実行委員会は「来年こそは例年通りの楓祭実施を。」と祈っていましたが、状況はなかなか好転せず、今年度も開催について悩まされました。緊急事態宣言下で一時は中止を検討した場面もありましたが、10月に入り



感染者数が減少したことから楓祭実施に踏み切り、当日まで2か月を切る中、急ピッチで準備をすすめてまいりました。

20日午前中に最終的な準備を終え、正午から第56回楓祭がスタートです。まずは新館2・3階と楓ホールを大胆に使用した「謎解き脱出ゲーム」、そして各学科のセンスが光る「有志催事」が盛り上がりを見せました。また、過去の楓祭で

は学生が飲食ブースを出展していましたが、コロナ禍において管理が難しいため、チケット交換制によるキッチンカーを新たに導入しました。通常の楓祭では見られなかった、石鹸やボディミストなどの体験型ブースやメニュー豊富なキッチンカーに、参加学生はマスク越しでも分かるほどの笑顔が溢れていました。



さらに、昨年の人気企画であったピンゴ大会も、豪華景品とともに帰ってきました。今年も大きな盛り上がりを見せ、結果にかかわらず楽しんでいる学生の姿が多く見受けられました。

短い準備期間でしたが、昨年の経験を活かしつつ新たな試みによる楽しみ方が生まれた楓祭になったかと思います。2年にわたり難しい状況での開催を実現した実行委員会は、次年度以降さらに魅力ある楓祭を見せてくれるでしょう。（学生課 倉田）

## キャリア支援課

### 2021年度第1回 「留学生対象就職対策講座」

5月26日（水）W302教室で2021年度第1回「留学生対象就職対策講座」を開催しました。

短大・大学を卒業後、日本国内での就職を希望する留学生は、在留資格を「留学」から「就労」へ変更する必要があり、多くの学生が「技術・人文知識・国際業務」という分野の就労ビザを目指すことになります。そのためは、大学・短大で学んだことを生かす業務に従事すること、あるいは、母国語を使うこと、という条件があり、大学・短大でどんな分野の学問を修めるかが重要になります。

それと同時に越えなければいけないのが「日本語能力」のカベです。留学生の採用を積極的に考えている企業であっても、留学生に対して日本語能力を身に着けていることを求め、具体的には、日本語能力試験の1級（N1）あるいは2級（N2）を条件とする所が多くあります。本学において、大学ではN2～N1、

短大ではN3～N2レベルの留学生が多く、就職活動において日本語能力不足が不利に働くことも少なくありません。目標を定め、在学中から就職に向けた意識をもち続けなければ、日本国内で就職する際のハードルが非常に高くなってしまいます。

就職希望の留学生は全員参加するよう呼び掛けてきました。しかし近年、留学生の講座参加率は伸び悩んでいます。留学生ならではの事情を理解し、自分の望む進路選択ができるようになるためにも、個別面談や就職対策講座などに積極的に参加するよう、キャリア支援課では引き続き指導をしていきます。

（キャリア支援課 荒川）



## 後援会

### 災害備蓄品(非常食)を 入れ替えました

大学後援会では、いざれ起こりうる災害に備え、災害備蓄品（非常食）購入の支援をしています。大学においては、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を推進中であり、食品ロス削減の観点から、備蓄品を入れ替えたこの時期に合わせて学生の皆さんに現在の在庫品を持ち帰っていただけるようにいたしました。

10月中旬に、学内の新館と本館に配布コーナーを設置したところ、多くの学生の皆さんが来られ、備蓄品を持ち帰っていただきました。



大学後援会では、災害への備えをはじめ、学生の皆さんが過ごしやすいキャンパスになるように、大学と共に引き続き施設・設備の充実に努めていきたいと考えています。

（総務課 寺尾）



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 [info@shizuoka-eiwa.ac.jp](mailto:info@shizuoka-eiwa.ac.jp)